

平成30年度 下甌・鹿島地域まちづくり懇話会

答弁要旨

と き 平成30年11月8日（木）13:00～15:00

ところ 鹿島公民館

出席者 市 : 市長、永田副市長

企画政策部長、市民福祉部長、観光・スポーツ対策監、建設部長、
危機管理監、消防局長、教育部長、下甌・鹿島支所長、下甌・鹿島
地域振興課長、下甌島教育課長、地域政策課長、甌はひとつ推進室
長、広報室長、外

地域 : 下甌・鹿島地区コミュニティ協議会長をはじめとする

地区住民 64名

(合計90名の参加)

議 題

議題1 (鹿島地区)

鹿島小学校体育館の大規模改修について

鹿島小学校体育館は、昭和63年3月に鹿島小学校へき地集会室として建設され、現在まで30年間経過した施設である。この施設の利用は、小学校はもとより地域における各種スポーツ団体も毎週定期的に利用しており、避難所にも指定されている。

完成後22年経過した平成22年に屋根の改修工事がなされ、その後においても再三修理を行ってきているが、今年になって屋根からの雨漏りが更にひどくなり、その影響で床までもが反り、歪みも起きてきており、使用上非常に危険な状況にある。

このような状態では、安全面から体育館の使用を制限せざるを得なくなり、学校の授業や地域の行事等にも支障をきたすことから、早急に鹿島小学校体育館の大規模な全面改修をお願いしたい。

【教育部長】

鹿島小学校体育館は、児童の他、地域の皆様によく利用いただいている施設である。平成22年度に屋根防水工事を行い、平成23年度には外壁改修工事を行っている。

しかしながら、改修後も雨漏りがあり、特に今年になり、更にひどい状態であると伺っている。

そこで、10年前に防水工事をした業者に、再度、現地確認をお願いし、もう一回屋根の塗装を10月上旬に施工した。その後、まとまった雨が降っていないことから、どこまで効果があったか、十分な検証ができていないところである。先程、学校長に

状況確認をしたところ、雨漏りはないということである。

併せて、雨漏り等の影響によって一部の床の剥がれや反り返っている箇所が見受けられる。このことで、皆様の利用に非常に支障を来していることも把握している。今後、張替えとフロアの全面的な研磨、反り返り部分の研磨を実施し、塗装までの工事を実施したいと考えている。

工事については、予算措置後、本年度中に実施したいと考えている。御理解と御協力をお願いする。

意見

これまで要望してきた雨漏り工事については終了しているが、雨漏り箇所が分からないためか、直っていない状況である。工事が終了したということであるが、大きな雨も降っていないので、分からない状況である。

今後、大きな雨が降り、もし雨漏りした場合はどうするのか。

【教育部長】

10月に改修工事を行った。この工事で、雨漏りは発生しないと考えているが、工事後に大きな雨が降っていないので確認できていないところである。今後の状況については、学校長と連携を図り、雨や体育館の状況を見ながら対応して参りたい。

意見

小手先だけの改修ではなく、全面改修を望んでいる。

【教育部長】

学校施設については、健全化計画で全ての小・中学校の校舎・体育館等について検証したところである。その結果では、鹿島小学校の体育館においては、今すぐに屋根が危険な状態である、外壁が危ないという現地調査の結果は出ていない。雨漏りが止まってくれば、十分対応できると考えている。

要望

改修工事を実施され、少雨については、一滴も雨漏りしていない。剣道スポーツ少年団活動や地域の方々の夜間の地域コミュニティの場として活用されている。小学校の教育活動のみならず、コミュニティ活動でも安心して使える改修工事を望むところである。

議題2（手打地区）

災害時の避難所施設の整備等について

手打地区には、指定避難所として、5箇所の施設が指定されている。台風時の実際

の避難所としては、下甌高齢者生活福祉センター（玉姫園）1箇所が開設される。住民もそのように認識しており、避難所として確保され運用・利用されている。

災害対策基本法や建築基準法に基づく避難所施設の選定基準はクリアできているとしても、住民のより円滑かつ安全な避難の促進を図られる施設として整備されているのか検討をしていただきたい。

手打地区内にも、台風時など安心して避難できる安全な避難施設の建設を望むものである。

なお、それまでの間、玉姫園の安全対策として、強風などにも耐えられる強化ガラスによる改修などの対策をお願いしたい。

【危機管理監】

指定避難所については、市全体で195箇所、下甌地域で19箇所、うち手打地区で5箇所を指定している。

本市では、指定避難所として指定する場合、既存の公共施設等で災害時に安全を確保できる施設を避難所として指定し、使用しているところであり、新たに避難所施設を整備することは考えていない。

これまで、避難施設の指定については、地域の改修要望等を受けて、各施設管理課所を経て改修に努めている。今後も集会施設等が新たに整備されること等があれば、指定避難所としての検討は行って参りたいと考えている。

【市民福祉部長】

玉姫園の現状を確認すると、施設を造った平成11年度から全面強化ガラスとなっている。しかし、一部浴室については、網目の入った強度が多少増したガラスの構造となっているため、対応できていると考える。

議題3（子岳地区）

トイレドアの修繕

岡公園、浜田川休憩所、浜公園の3箇所のトイレドアが破損している。夏場は帰省客や、観光客が多いため早急に修理をお願いします。

【建設部長】

公園のトイレドアが破損し、放置されていたことについて、お詫びを申し上げる。確認したところ、片野浦岡公園は修理済みで、残りの2箇所は部品の発注中であり、対応しているところである。

しかし、トイレドアが破損したままになっていること自体があってはならないことである。今後、公園については、支所職員及び管理している指定管理者が連携を取りながらこのようなことがないように管理していく。子岳地区だけではなく、全ての地区において関係してくることである。甌島は観光が目玉である。観光地にはトイレのことが伴ってくるので、しっかりと対応して参りたい。

なお、お気付きの場合は、支所あるいは公園の看板には指定管理者の連絡が記載さ

れているので、その連絡先に遠慮なく御連絡いただきたい。今後も、連携をお願いしたい。

議題4（西山地区）

道路の整備について

前回のまちづくり懇話会でもお願いしましたが、当地区では、市道の整備が最重要です。梅雨時期から夏にかけて、道路の草や竹が伸びて白線も見えず、どこまでが道路なのか分からない状態です。県道は広くて2車線になっていて定期的に草刈が行われています。もちろん、県道と市道とは交通量が違うので仕方ないことではありますが、私たちが利用する道路は生活道路です。病院へ、買い物へ、市役所の支所へと必ず通らなければなりません。道路が狭い上に草や竹が伸びたら、非常に危険な状態になります。住民の安全のためにもせめて年3回以上の草刈りをお願いします。

また、前の平展望所から長浜に向かって200m先の道路の法面が、2年前の大雨で腹が膨らんで崩壊しています。ブルーシートで覆われていますが、いつ崩れるか心配であり、住民の不安が高まっています。定期バスも通行していますので、早急の復旧をお願いします。

地域が安全で暮らせることが、移定住の条件だと思っておりますので、よろしくをお願いします。

【建設部長】

道路の伐採は甌島地域のみならず、本市全体の大きな問題であり、要望の多い案件である。

特に甌島地域は集落間が非常に長く、もともと林道であったところが主要な幹線道路となっている。道路の伐採作業は、基本年1回と、要望のあった場所等を業者の方や補修班で対応をしている。本年度、観光ルートという位置付けで、全路線を2回伐採した場合の費用を支所で調査・算出した。

来年度から、2回は実施できるのではないかと考えており、今後、予算要求をしていくことと考えている。さらに、カーブで危険な箇所や高木の枝が道路に繁茂しているような箇所は、別途伐採の対応をして参りたいと考えている。

また、市道長浜・瀬々野浦線、前の平展望所付近の法面が崩れかかっている部分については、すでに測量と設計を終えている。今後、土地所有者と協議し、承諾、用地の提供等がいただければ、早急に対策工事に着手して参りたい。

伐採については、道路作業もあるが、各地区において、高齢化や人口減少で、作業範囲も限られてきている。どうか無理のない範囲で作業していただきたい。伐採に対する費用を確保して参りたいと考えている。

議題5（内川内地区）

道路脇の木々の伐採について

バス道路（自衛隊基地から内川内・西山まで）の道路脇の、木々の伐採をお願いしたい。

悪天候の時など暗く怖い通りたくない道です

小さな木々は大胆に伐採して明るいバス道路にしていきたい。

【建設部長】

議題は西山地区と類似しており、回答は、西山地区への回答と同じである。

道路伐採の回数を増やして参りたいということと、道路脇の桜に、テングス病が発生しているということなので、藪牟田池での実施事例もあることから、所管課での対応を検討して参りたい。御理解いただきたい。

議題6（長浜地区）

コミュニティセンターの所在地等について

従来から老朽化し交通の利便性に欠ける当地区コミュニティセンターの建て替えを要望しているところであり、前回の懇話会では、藪牟田瀬戸架橋完成後、甌島の公共施設を全般的に見直すとのことご回答をいただきました。

そこで、ぜひ当コミュニティセンターの建て替えもその計画の中に入れてくださるよう再度お願いいたします。

さらに、現在のコミュニティセンターの場所は、ご承知のように2本の河川の間であり、この地域はかつて大きな土石流災害が発生し、多くの人命が奪われた所でもあります。

現在、当コミュニティセンターは、長浜地区総人口の約6割を対象とした緊急時避難場所に指定されていますが、今後起きると想定されている、南海トラフ地震や甌島東方沖地震による10m超級の津波の襲来を考えた場合、場所的に大変危険な地域に位置しています。

つきましては、場所の選定にあたり、区有地の高台等をご検討くださるよう合わせてお願いします。

なお、現在のコミュニティセンターは、2階に和室が在りますが、高齢者等の避難や利活用が困難な状況ですので、他地区同様、高齢者や障害者が利用しやすいように、エレベーターを設置していただきたくお願いします。

【企画政策部長】

コミュニティセンターについては、前回、前々回と御質問いただいている。本市の公共施設再配置計画の中で、施設の耐震化や屋根防水、外壁落下防止を計画的に進め、施設の長寿命化を図るとともに、他の施設の空きスペースへの機能集約や、他の施設との複合化を図ることになっている。

長浜地区コミュニティセンターについては、平成24年度の耐震診断では、耐震上

問題はない、という診断がなされている。これまでも、空調設備の取り換えや爆裂補修等、計画的な維持補修に努めている。今後も、長寿命化を図るために必要な維持補修を実施して参る考えである。現段階においては、新たなコミュニティセンターを建設する考えは持っていないところである。

コミュニティセンターの設置場所については提案があり、先ほど現場を確認した。区有地で高台にあるところである。この土地を調べてみると、土砂災害特別警戒区域急傾斜地レッドゾーン及び土砂災害警戒区域急傾斜地イエローゾーンに指定されており、ここにコミュニティセンターの建設は困難ではないかと考えている。

また、エレベーター設置についての御要望があったが、過去2回にわたり設置希望の調査を実施し、その意向に沿って市内にエレベーターを設置している。その当時、長浜地区については、大会議室が1階に設置されていることから、設置希望がなかったのではないかと考えている。今回、改めてエレベーターの要望が出されたので、設置に向けて検討を進めて参りたい。

前回のまちづくり懇話会の中で、藺牟田瀬戸架橋完成後、公共施設の在り方を考える中で、コミュニティセンターについては、総合的に検討したいと回答している。これは昨年、県が藺牟田瀬戸架橋の完成時期が平成32年度中になると明示された。それを受けて、現在、甌はひとつをスローガンに、甌島地域の一体化方針の検討に入っている。具体的には、平成28年4月に甌はひとつ推進会議の提言が出されているが、この提言を尊重しながら、架橋完成後の平成33年4月を目標に、支所、医療施設等の行政施設の集約の他、併せて防災体制、交通体系の在り方も含めて、総合的に今現在、検討している段階である。コミュニティセンターもこの中で一緒に検討を進めているので、本日は結論的なことは申し上げられないが、今後、全体的に公共施設をどのように配置したらいいのか、機能的にあるいは住民サービスの上でどのようにしたらいいのかを考えながら進めているところである。御理解いただきたい。

要望

コミュニティセンターの場所であるが、従来の緑地公園をお願いしているところである。本年、避難訓練を実施しようとして計画した。その前に、社会福祉協議会の方で防災研修会を開催していただき聴講したところである。

南海トラフ地震、甌島東方沖地震が予想されている。その中では10mクラスの津波が長浜辺りでは押し寄せるのではないかとされている。10mクラスの津波が押し寄せるとなると、現在のコミュニティセンターの場所や緑地公園、住家等が全てやられてしまうのではないかと懸念を抱いている。

したがって、平成33年4月に向けての計画があるのであれば、土石流区域以外の場所で高台を選んでいただき、長浜地区コミュニティセンターの建設を御検討いただけないか。

また、エレベーターについては、2階の和室を高齢者が会議等で使用するケースもある。その他、2階に上がれない方もいる等、色々な声が上がってきている。設置について、早急に御検討いただけないか。

【企画政策部長】

まず、エレベーターについては、今回要望があったので検討を進めて参りたい。

南海トラフの津波については、甑島全域が対象と言える大きな問題である。10mの波が押し寄せるとなると、避難が第一であると考えてるので、避難道路の整備等が優先されるのではないかと考える。そうした上で、避難場所については高台でなければできないと考えるが、長浜地区に限って申し上げると、平地が少なく山が迫っているため場所の確保が難しいと考える。長浜小学校や海星中学校は高台にあるため、避難所として利用できないかということも含めて、今後、長期的な課題として防災当局とも検討して参りたい。

議題7（青瀬地区）

公衆トイレの設置

青瀬地区には公衆トイレが瀬尾観音三滝公園にしかなく、観光客等が不便を感じている。観光客誘致を進めるためにも、トイレの設置を望むものである。

【観光・スポーツ対策監】

本件については、昨年度実施されたこの会議でも類似の質問をされたものである。

先般、当該候補地を歩いてみた。確かに素晴らしい場所であることを再認識したところである。

トイレについて、現状としてバスや車での観光客の皆様が、例えば、青瀬地区であれば、瀬尾観音三滝キャンプ場にトイレがあることさえ知らないお客様もいるようなので、まずは、旅行会社や観光客等にお知らせするとともに、観光パンフレットにトイレ情報の記載を充実する等の取組をしたいと考えている。

この他、御意見に対して、恒久的な対応にはならないが、当該地域の海岸線沿い等には青瀬地区コミュニティセンター、下甑歯科診療所、消防団下甑北分団青瀬部車庫詰所の3つの公共施設がある。それぞれの施設については、利用対象者の違いから機能・設備の全く違う施設である。また、外から利用できる構造ではない。この他、関係団体、市の所管部署もそれぞれ違う施設であるが、将来を見据えて、有効活用の観点から、観光客のトイレ利用ができないか、関係者へ相談しながら研究したいと考えているところである。

その他意見・要望

要望

長浜地区コミュニティ協議会では、今年度から重点課題として「地区内花いっぱい運動」を推進しています。

当地区は下甕島の玄関口であり、多くの住民や観光客等が訪れますので、地区内の環境の整備をする必要性を感じ、緑地公園周辺の花植えや清掃等を行い、県道海岸線への花植え、美化運動を推進しております。

また、今年から新たに、桜やツツジ、モミジ等がきれいな越路神社周辺を生かして、その隣接地の約1,500㎡の荒地を整備し、ここに花公園を造成する計画を進めています。

今後、ここに花木を増殖し、地区民の憩いの場や観光客の立ち寄り公園にしたいと思っています。そこで、この公園にトイレや休憩東屋、ベンチの設置、防犯灯の設置などの補助が受けられないか要望いたします。

【市民福祉部長】

花いっぱい運動についての補助金を準備している。所管課は環境課。これまで地区コミュニティ協議会や有志の方々が利用された実績もある。花や肥料の購入、フラワーポット等の資材購入等に御活用いただきたい。

【企画政策部長】

地域政策課が所管する補助制度等について紹介する。地区コミュニティ協議会が公園を整備する場合の支援制度としては、コミュニティマイスター事業が考えられる。年20万円を上限としている。

具体的には、休憩東屋やベンチ等を設置する場合に使用する消耗品、あるいは、原材料を市が現物支給（生コン・バラス）、あるいは、使用する重機を市が借り上げる制度となっている。活用いただきたい。

また、トイレの整備については、地区コミュニティ活性化事業補助金の基本コースの活用が可能である。補助制度としては、3年間（平成29年度から31年度まで）で1事業対象となり、補助額は事業費の3分の2、上限20万円である。

防犯灯については、防犯灯設置費補助金制度があり、地区コミュニティ協議会が設置することも可能である。LED灯で1基12,000円、鋼管柱で10,000円、木柱で3,000円の補助となる。ただし、維持管理費等については、地区コミュニティ協議会の一部負担となる。詳細は、地域政策課へ問い合わせいただきたい。

要望

藺牟田瀬戸架橋が2年後に完成となる。現在の道路状況、医療体制、学校関係、防災体制等について、どのような考えで取り組んでいるのか、全体的に御説明いただきたい。

【企画政策部長】

藺牟田瀬戸架橋完成後の甑島の青写真ともいえる、一体化方針の内容について、基本的なことをお話しさせていただく。

甑はひとつ推進会議が平成26年度に設置をされ、これまで10回ほど住民の代表者からいろいろな御意見を出していただき、平成28年4月に提言書が市に提出された。

昨年県が、藺牟田瀬戸架橋が平成32年度中に完成するとの方向性を明示された。市としては、架橋完成後の甑島の一体化、支所、医療施設、学校、その他公共施設、防災体制等について、現在、方針案を検討している段階である。

基本的な方針として、甑はひとつ推進会議の提言書を尊重して方針案を決定していくということが1点目、支所と診療所を中心に再編を進めていきたいという考え方がある。再編時期は、平成33年4月を考えている。架橋完成が32年度中であるので、平成33年4月には再編を実行する目標としている。市で調査をしているが、その際、合併前に建設された各種公共施設が数多くある。公共施設の劣化度調査を実施している。施設ごとに何年持つのかということ調査・把握しなければ検討もできないためである。劣化度調査を実施した上で、残すもの、新たに入れるものを検討することになる。

交通体系であるが、コミュニティバスについては、架橋後は里地区から手打地区まで走ることになる。運行体制と同時に見直すということも決めている。

このように、基本的なことを市の関係課で検討を進めており、まだ発表の段階ではないが、平成31年2月頃には、方針案を皆様方にお示しできるのではないかと考えているところである。

【建設部長】

芦浜トンネル付近が未改良のままになっており、県としても改良を視野に入れていると聞いている。

また、鹿島町の藺牟田漁港付近は、既に設計が完成しており、説明会も開催される。

県としても、芦浜トンネルの下の方に、青写真ではあるが、4kmのトンネルを入れて改修をしていきたいと考えている。藺牟田瀬戸架橋完成後ではなく、完成する前くらいに事業化を認めていただきたいということで、要望活動をしているところであり、9月の要望活動では福岡県の九州地方整備局に市長を先頭に、藺牟田瀬戸架橋建設促進期成会副会長にも同行いただいた。まだはっきりと公表されていないが、県道整備についても動きがあるということをお報告する。

【市民福祉部長】

医療分野を所管しているので、その考え方について説明させていただく。

甌はひとつ推進会議の中で医療従事者の確保が困難になった場合は、入院施設を持つ診療所を核として、体制を維持し、そのことを優先するとの取りまとめがなされ、それを尊重しながら作業を進めているところである。

鹿島地域を含む甌島での医療、要するに、守るべき地域医療については、患者様の状況を見ると、慢性的な病気が中心であることから、定期的なかかりつけ医による外来、もしくは、在宅に応じての在宅医療を中心に、そこを強化していかなければならないという考え方を進めているところである。

また、地域の高齢化等が進むと、今後どのようなことが必要になってくるのかと言えば、高齢者のみの世帯及び独居の高齢者等の世帯が増加する中では、地域・介護・医療との連携を図る、地域の包括ケア体制を構築する必要があり、診療所もその大きな役割を担っているところである。

そうした中で、一人体制の医師・看護師等の診療所の方を、このままの状態であるとは対応しきれない状況等も発生することが、協議の中の共通の認識となっている。

また、医師の採用・派遣等についても、派遣いただいている機関の方からすると、一人体制での診療所への派遣は、なかなか厳しいという状況等も見えてきているので、市としても病床を持つ、核となる診療所を中心に、その体制を維持しながら、地域に出向いた出張診療や送迎による外来対応等によって、地域の医療を確保して参りたい。特に、これらの医療については、方針を決めて施設を造り、体制を確保していくためには数年の期間を要するので、平成30年度中にどのような形がいいのか、提案させていただくような内容を取りまとめようとしているところである。

【消防局長】

藺牟田瀬戸架橋完成後の消防・救急体制についてお話しする。

消防体制については、例えば、鹿島地区で火災が発生した場合には、これまでは鹿島分団が対応し、そして、応援に下甌北分団が来ていたが、架橋が完成すると、上甌中央分団も応援に来ることになる。

救急体制については、現在は鹿島地区で救急が発生すると、下甌分駐所から来ている。この距離が、14.5kmである。架橋が完成すると、上甌分駐所から11.5kmになり、上甌島から来た方が、3km近くなることや時間的にも早くなるであろうと考えている。ただし、どこの病院に行かれるのかで変わってくるので、管轄区域については、地元の御意見をお聞きしながら、検討して参りたい。

要望

ただいま検討中ということであるが、一番急ぐことは、交通体制のことではないか。何はともあれ、里から下甕まで走れることになる。長浜から鹿島までが1車線で危険な状態である。

交通体制は、架橋完成までにきちんとしたものにしていただきたいと要望する。

お願い

- ① 鹿島地区にはかこの幼稚園鹿島分園はあるが、保育園がなく、青瀬地区まで3名の子どもが通っている。幼稚園のように、分園という形で鹿島地区に保育園を設置していただけないか。具体的に御検討いただきたい。
- ② 先ほど、甕はひとつ推進会議で藺牟田瀬戸架橋後の問題については、いろいろと検討中であるとお聞きした。その一つに航路問題があるのではないか。現在、鹿島港にはフェリーニューこしきが寄港している。現状のまま残していただきたい。医療や漁業の面からも非常に大事である。御検討くださるようお願いする。

要望

- ① 鹿島から魚を送る際は、唯一の航路であるフェリーを利用している。現状は、午前・午後の2便あるが、魚の出荷は主に2便目を利用している。航路は、現状維持していただきたい。
- ② まちづくり懇話会の開催について、より多くの方や若者が参加できるように、祝日・夜間等の開催を検討できないか。多くの意見が出るのではないかと考える。

【市長】

フェリーについては、時間を十分に掛けて検討しなければならない。関係機関との関係もあるので、十分参酌しながら検討して参りたい。

このまちづくり懇話会の設定については、地区コミュニティ協議会会長様とも御相談しながら、要望のあった時間帯が確保できれば可能であると考えます。

甕島地域だけは、若者が参加できるような仕組みを考えていきたい。

総括

【岩切市長】

いろいろな御意見をいただき、感謝申し上げます。

高齢化社会が到来し、今後どうなるのかと皆様方から心配されている御意見がたくさん出た。災害時の避難の在り方等、いろいろな御意見をお聞きしたので、今後更に突き詰めて検討させていただきたい。

市としては、観光として生かされる部分がたくさんあると考えている。恐竜が発掘

されており、学術的にも大変貴重なものであるので、観光として売り出す、そして、来た方々がこの地にお金を落としていただきたい。特に若い方たちの今後の将来を考えなければならないので、産業になるような仕掛けもしていかなければならないと考えている。皆様方に御相談・御協力いただきながら、甌島を盛り上げていきたいと考えているので、御理解いただきたい。

下甌島の方々が、種子島に相当数移住されている。昭和60年代に移住100周年をされたとお聞きしている。これを復活するように考えていった方がいいのではないかと思っている。今後、種子島の首長等と話をしてみたい。できれば、このような交流も生かしていければいいのではないかと考えているので、研究してみたい。